

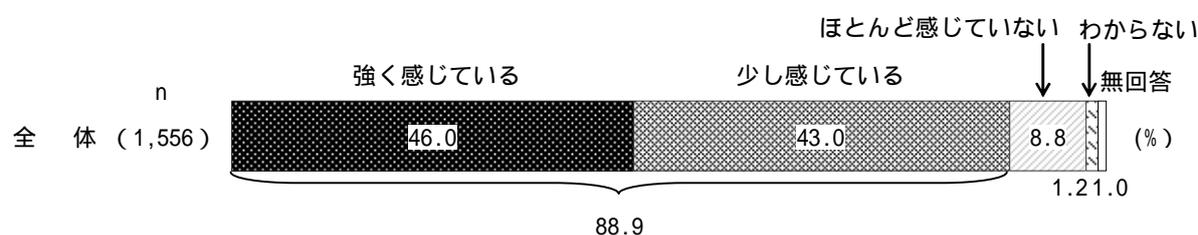
6 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

『感じている』が約9割

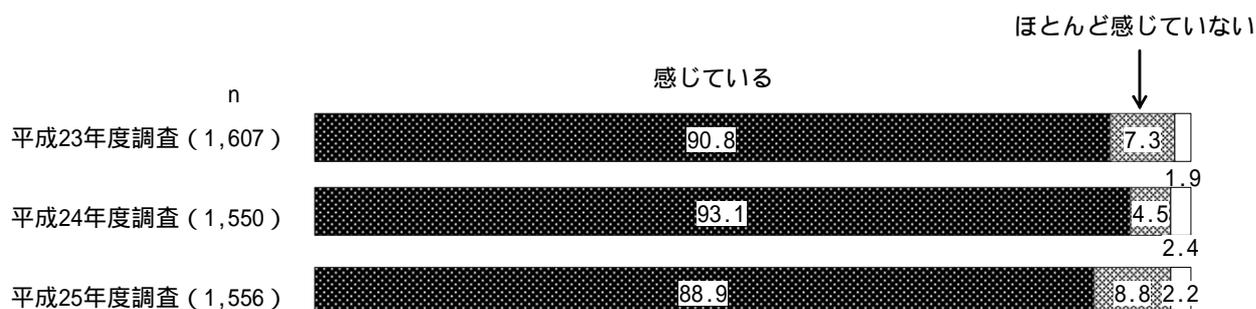
問26 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、大きな被害が出ました。また、近年、記録的な大雨や台風などにより国内では浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。(は1つ)

<図表6-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(46.0%)と「少し感じている」(43.0%)を合わせた『感じている』(88.9%)は約9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(8.8%)は約1割である。(図表6-1)

【参考】平成23年度・平成24年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



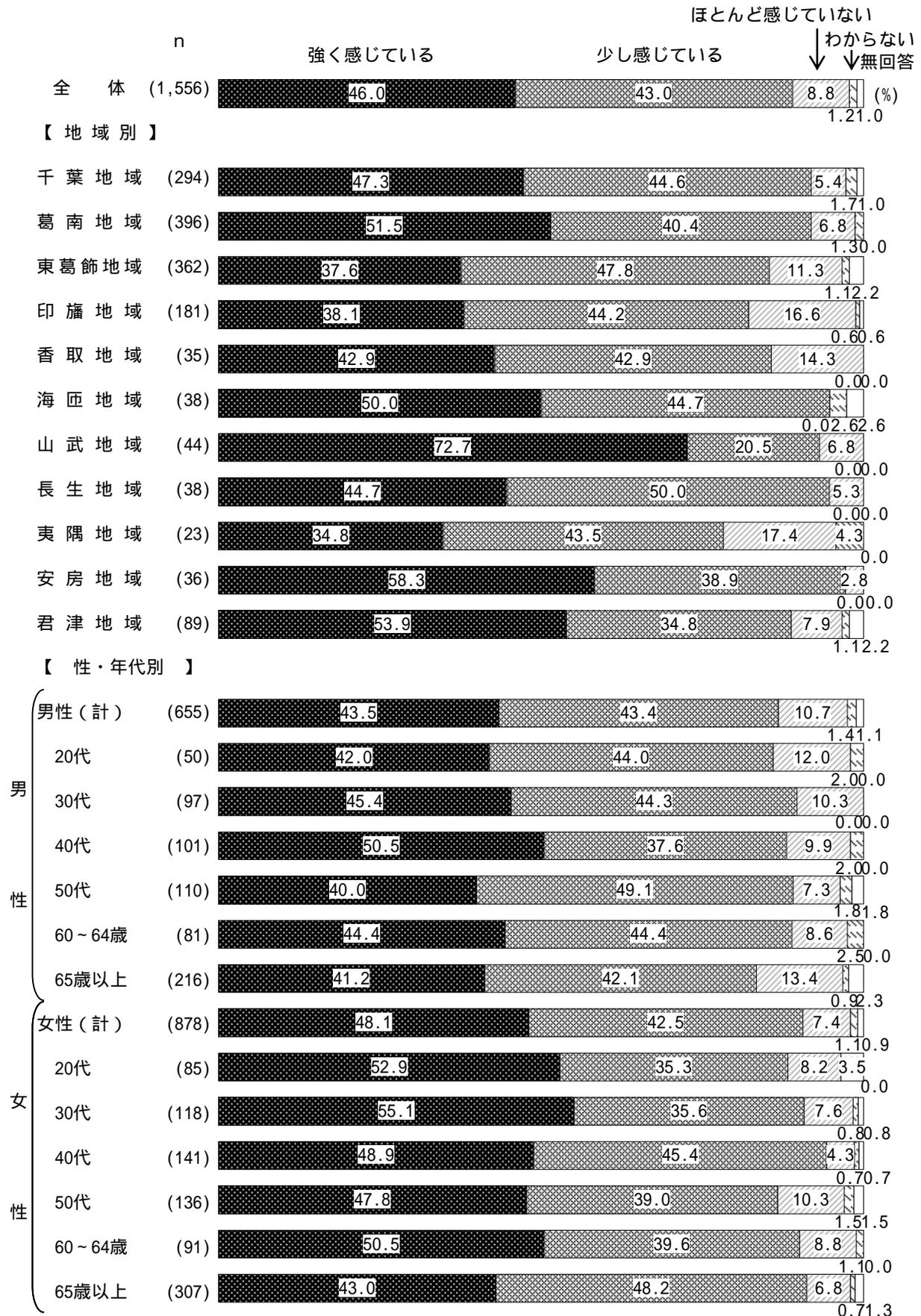
【地域別】

地域別にみると、『感じている』は“夷隅地域”(78.3%)以外のすべての地域で8割以上となっている。(図表6-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている』は全ての年代で8割以上となっている。女性では、20代(88.2%)、50代(86.8%)以外のすべての年代で9割以上となっている。(図表6-2)

<図表6 - 2> 大地震や風水害への不安 / 地域別、性・年代別



(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

「知っている」が6割を超えている

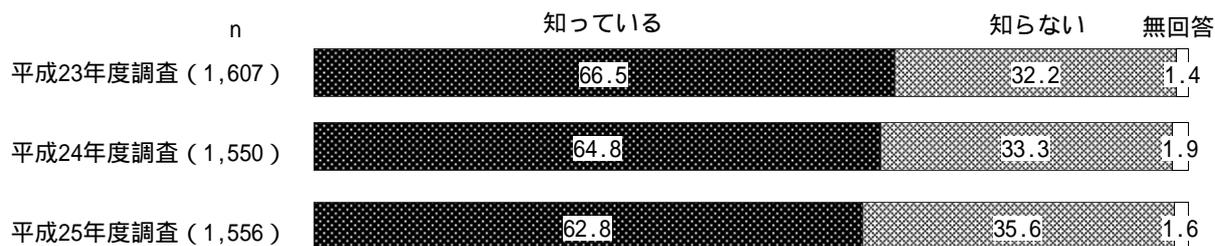
問27 市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。(は1つ)

<図表6-3> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(62.8%)が6割を超えている。一方、「知らない」(35.6%)は3割台半ばとなっている。(図表6-3)

〔参考〕平成23年度・平成24年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



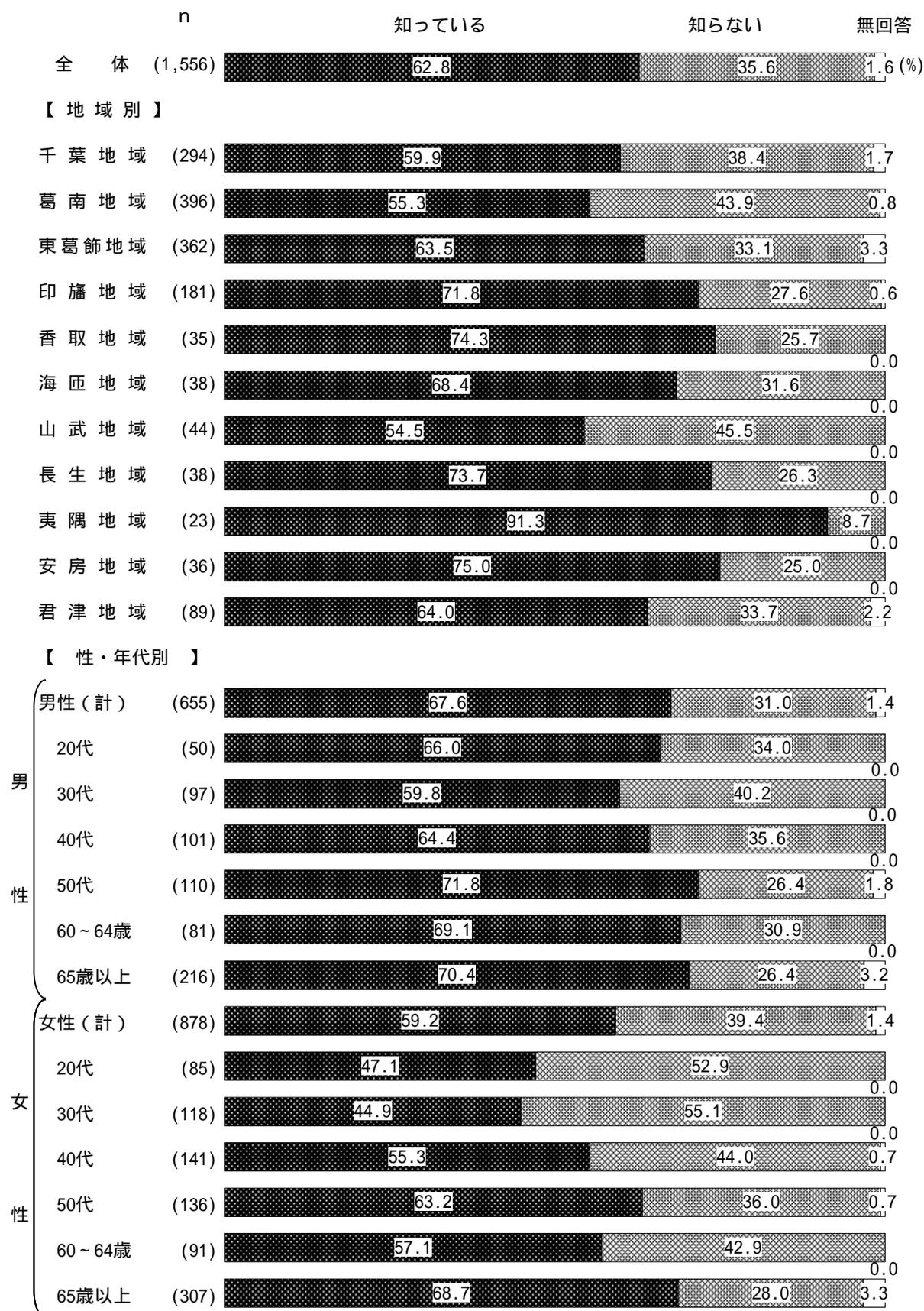
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“夷隅地域”(91.3%)が9割を超え他の地域に比べて高くなっている。(図表6-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の50代(71.8%)、男性の65歳以上(70.4%)が7割以上で他の年代に比べて高くなっている。(図表6-4)

<図表6 - 4> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度/地域別、性・年代別

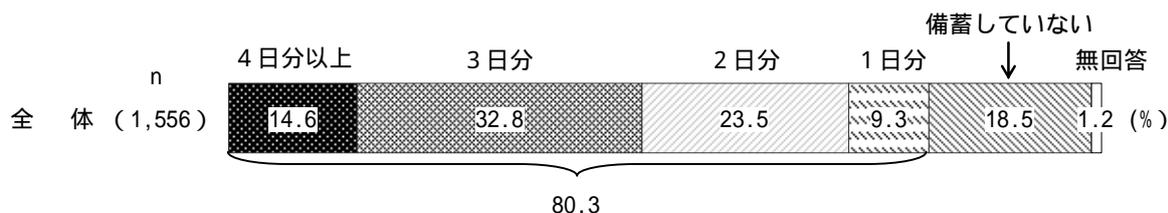


(3) 飲料水や食料の備蓄状況

『備蓄している』は8割

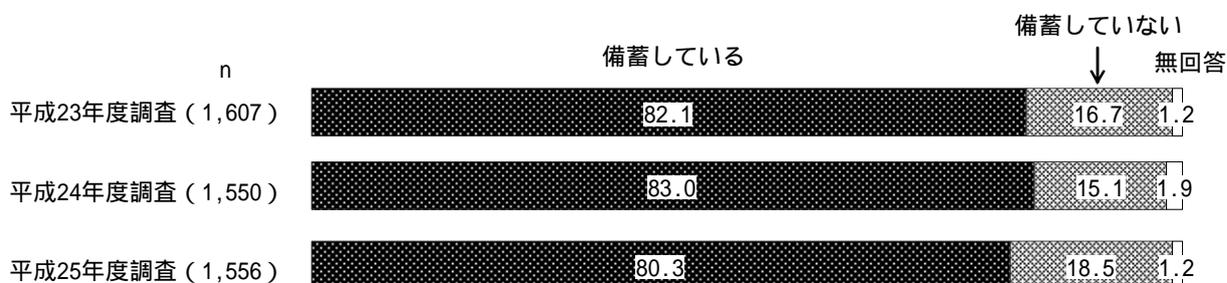
問28 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫等にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。(は1つ)

<図表6-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.8%)が3割を超え、「2日分」(23.5%)は2割台半ば、「4日分以上」(14.6%)は1割台半ば、「1日分」(9.3%)は約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(80.3%)は8割となっている。「備蓄していない」(18.5%)は約2割となっている。(図表6-5)

〔参考〕平成23年度・平成24年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



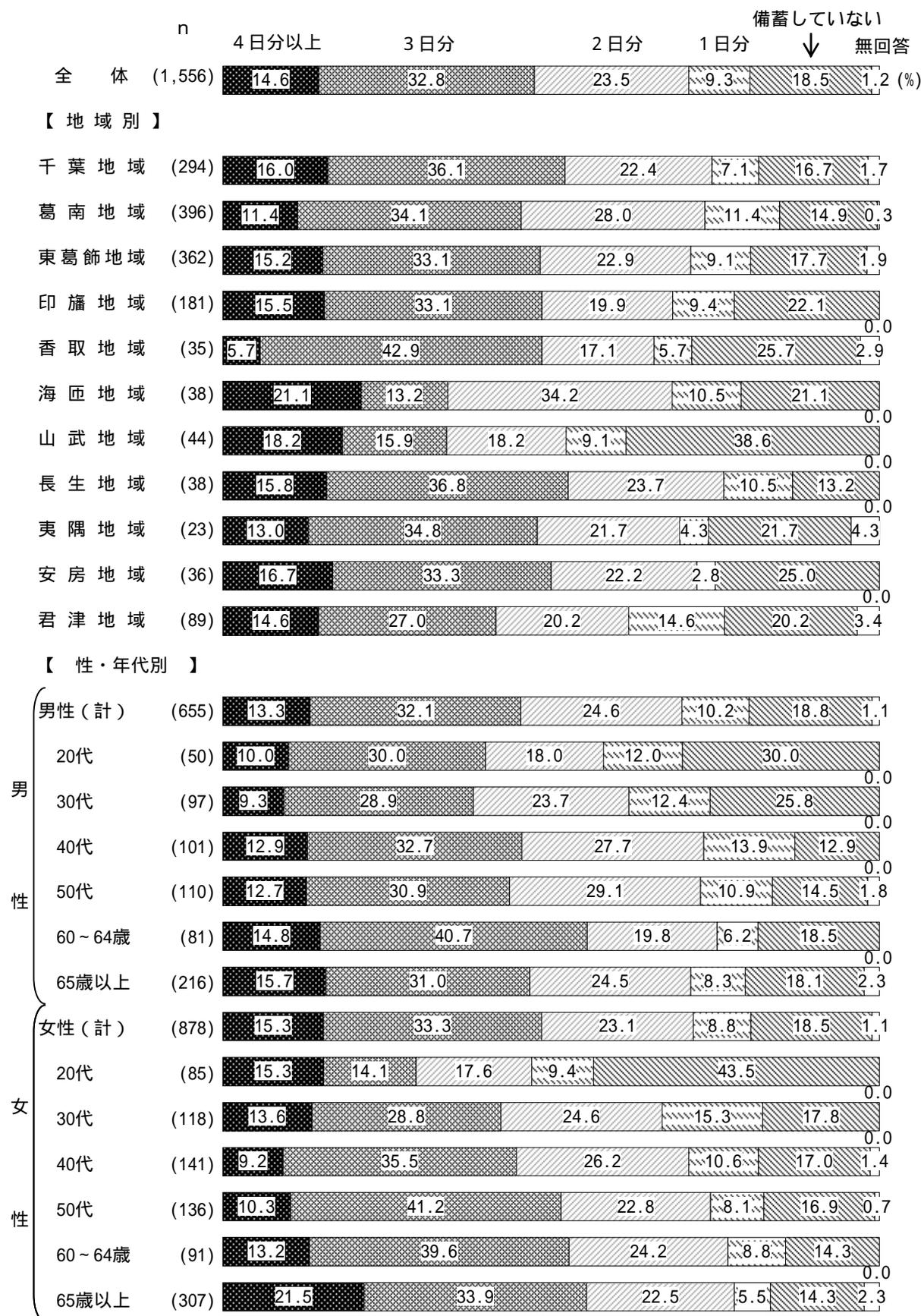
【地域別】

地域別にみると、「備蓄していない」は“山武地域”(38.6%)が約4割で他の地域に比べて高くなっている。(図表6-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「備蓄していない」は女性の20代(43.5%)が4割台半ば、男性の20代(30.0%)が3割で他の年代に比べて高くなっている。(図表6-6)

<図表6 - 6> 飲料水や食料の備蓄状況 / 地域別、性・年代別



(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

「知っている」は約6割

問29 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。東日本大震災でも、使用できなくなりました。

あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。

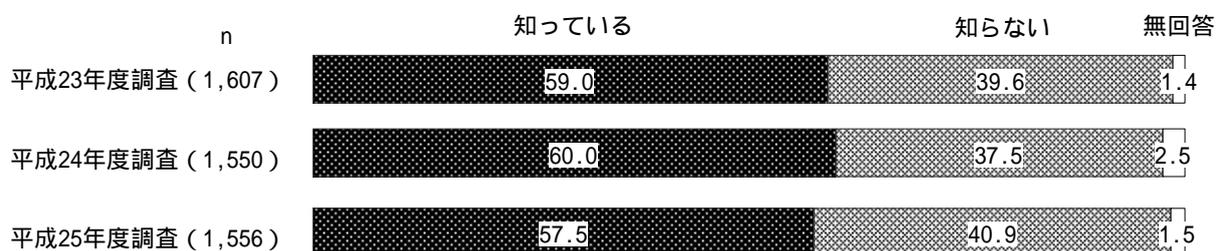
（は1つ）

<図表6-7> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(57.5%)は約6割となっている。一方、「知らない」(40.9%)は4割となっている。(図表6-7)

〔参考〕平成23年度・平成24年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



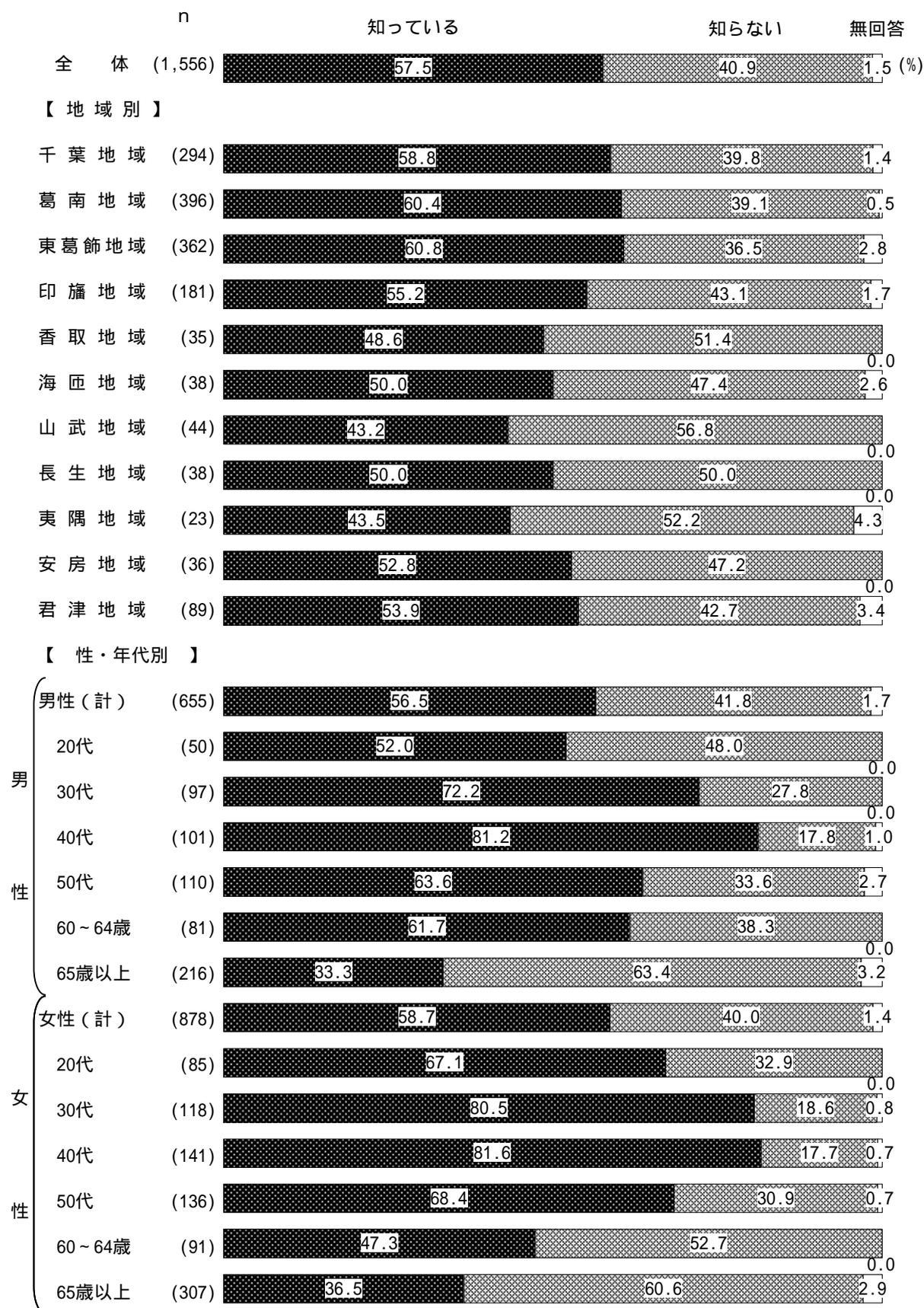
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“東葛飾地域”(60.8%)、“葛南地域”(60.4%)が6割で他の地域に比べて高くなっている。(図表6-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の40代(81.6%)、男性の40代(81.2%)、女性の30代(80.5%)が8割以上で他の年代に比べて高くなっている。(図表6-8)

<図表6 - 8> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度 / 地域別、性・年代別



(5) 地震の被害を防ぐための対策

「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約6割

問30 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか。（行う予定ですか）（はいいくつでも）

<図表6-9> 地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注) () の数字は平成24年度の同様の項目による調査結果 n = 1,550

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（58.1%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」（51.3%）が5割を超え、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.4%）と「住宅の建替え（昭和57年以降）」（8.4%）が約1割と続いている。（図表6-9）

【地域別】

地域別にみると、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は「安房地域」（72.2%）が7割を超え、他の地域に比べて高くなっている。（図表6-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の60～64歳（66.7%）が50代（63.6%）6割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は女性の65歳以上（58.0%）が約6割で他の年代に比べて高くなっている。（図表6-10）

<図表6 - 10> 地震の被害を防ぐための対策 / 地域別、性・年代別

